【論文の種類】（総説/原著論文/実践研究/研究資料/その他）

【題目】（副題をつける場合は：を用いて主題に続ける）

【英語題目】(総説、原著論文、実践研究、研究資料のみ。副題をつける場合は：を用いて主題に続ける）

【キーワード、３〜５語】

【英語キーワード、３〜５語】(総説、原著論文、実践研究、研究資料のみ)

原稿本文には、著者名や所属名など、著者らの特定につながる情報は記載しないでください。

倫理審査を受けた研究では、審査機関名も伏せておき、受理後に追記するようにしてください。

謝辞や付記は、受理後に追記するようにしてください。

上記の情報が含まれた原稿は、査読に移行せず、著者らに差し戻されますのでご注意下さい。

投稿時はPDF形式で学会HPメンバー用ページの論文投稿システムにアップロードしてください。

このテキストボックスは投稿時には削除してください。

【和文抄録　200〜300語程度】

【英文抄録　100〜150語程度】(総説、原著論文、実践研究、研究資料のみ)

ここから本文

原稿の3ページ目からは，本文，文献リスト，図（写真を含む）表の順に記載する．

本文の見出し番号は，I.　II.　III. …，1.　2.　3. …（1）（2）（3）…，① ② ③ … の順を原則とする．

図（写真を含む）表は，本誌に直接印刷できるように，文字や数字を鮮明に書く．原則として白黒印刷とし，カラー印刷を必要とする場合は投稿者が実費を負担する．原稿1ページに図表1点をレイアウトし，通し番号とタイトルを記し，本文とは別に番号順に一括する．本文中への挿入箇所は，本文中にそれぞれの番号を明記する．

謝辞や付記は，公正な審査を行うために，審査終了後，論文が受理された後に原稿に書き加える．

総説，原著論文，実践研究，研究資料の原稿は，図表を含めて原則として刷り上がり12ページ以内，その他の論文は，図表を含めて原則として刷り上がり6ページ以内とする．原稿は，刷り上がり1ページを全角約2000文字として計算し，刷り上がり時の図表の大きさも勘案し作成する．

本文中の文献記述は著者名と出版年で示す．著者が2名の場合には，「中黒（・）」（欧文は「and」），著者が3名以上の場合には，筆頭著者の後に「ほか」（欧文は「et al.」）を用いる．複数の文献が連続する場合には，セミコロン（；）でつなぐ．同一単行本からの引用箇所が複数ある場合には，著者と出版年と引用ページを記載する．

［例］  
・コツは，「運動ができるようになる勘どころを表現したもの」（阿江，1999）であり，「運動感覚に支えられた身体の知恵」（金子，2002，pp.262-263）である．  
・スキルテスト（Brace，1966；Krüger and Niedlich，1985；松田，1970）では，…  
・ …個人戦術力を評価しようとしている（長野ほか，2010；Yamada et al.，2011）．

このテキストボックスは投稿時に削除してください

参考文献

文献リストは，本文の最後に著者名のABC順に一括し，雑誌の場合には，著者名（西暦発行年） 論文名．雑誌名，巻（号）：ページ．の順に記載する［例1］．

単行本の場合には，著者名（西暦発行年）書名．発行所：発行地，引用ページ（単一ページはp.，複数ページはpp.）の順に記載する［例2］．

同一単行本からの引用箇所が複数ある場合には，引用ページは本文中に記載する．同一著者の同一年に発行された複数の論文または単行本については，発行年の後にa, b, c, ･･･をつけて区別する［例3］．

翻訳書の場合には，著者の姓：翻訳者名（西暦発行年）書名．発行所：発行地，引用ページの順に記載する［例4］．

［例1］  
會田　宏（1994）ボールゲームにおける戦術の発達に関する研究．スポーツ運動学研究，7：25-32．  
Yamada, E., Aida, H., and Nakagawa, A.（2011）Notational analysis of shooting play in the middle area by world-class players and Japanese elite players in women’s handball．International Journal of Sport and Health Science，9：15-25．

［例2］  
鯨岡　峻（2005）エピソード記述入門．東京大学出版会：東京, p.40．  
Roth, K.（1989）Taktik im Sportspiel．Verlag Karl Hofmann：Schorndorf．

［例3］  
金子明友（2005a）身体知の形成（上）．明和出版：東京．  
金子明友（2005b）身体知の形成（下）．明和出版：東京．

［例4］  
メルロ＝ポンティ：竹内芳郎ほか訳（1974）知覚の現象学2．みすず書房：東京，p.219．

このテキストボックスは投稿時に削除してください